2026 年北九州大会プログラム(10 月 29 日・・午前)

A 会場(1F・メインホール)

司会 雨宮正臣氏 (JPEC)(9:30～10:30)

1A01(9:30～9:45)液体合成燃料製造用 SOEC 共電解性能向上に向けた研究開発 (産総研[1])○田中洋平[1], 高田尚樹[1], Kuo, P. C.[1], 山口拓哉[1],

1A02(9:45～10:00)直鎖アルカンの異性化能を有する担体を用いた FT 合成触媒の開発 (成蹊大[1], 山梨大[2])○佐橋 巧[1], 前田香織[1], 叶 洪[1], 里川重夫[1,2]

1A03(10:00～10:15)担持コバルト触媒の還元条件が FT 合成に与える影響
(成蹊大[1], 山梨大[2])○大島拓海[1], 叶 洪[1], 里川重夫[1,2]

1A04(10:15～10:30)CO_2直接 FT 合成反応における Sm_2O_3担持 Co 触媒の反応性
(成蹊大[1], 山梨大[2])○吉田颯翔[1], 井上将一[1], 大森惇史[1], 内野壮貴[1], 内田碧葉[1], 叶 洪[1], 里川重夫[1,2]

休憩(10:30～10:45)

司会 佐藤一仁氏 (コスモ石油)(10:45～11:45)

1A05(10:45～11:00)合成ガスの高効率製造技術の開発－SOEC 共電解とテールガス改質の組み合せによる効率化－
(JPEC[1])○渡邉治彦[1], 能星英喜[1]

1A06(11:00～11:15)Co 担持触媒における Co-担体相互作用が FT 反応特性に及ぼす影響 (産総研[1])○重信咲季[1], 伊藤 覚[1], 堀口元規[1], 陳 仕元[1], 望月剛久[1]

1A07(11:15～11:30)CO_2を原料に用いた液体燃料合成用担持鉄触媒の開発 (名古屋大[1])○小川祐介[1], 西田吉秀[1], 山田博史[1], 佐藤勝俊[1], 永岡勝俊[1]

1A08(11:30～11:45)FT ベンチ装置による液体合成燃料製造検討(第 4 報)FT 触媒活性グレーディングによる反応熱制御検討
(JPEC[1], 太陽石油[2])○雨宮正臣[1], 教蓮 亨[2], 佐藤 行, 関沢礼子[1], 大山信雄[1]

B 会場(1F・11 会議室)

司会 和田 透氏 (北陸先端科学技術大学院大学)(9:30～10:30)

1B01(9:30～9:45)ケチミド配位ハーフチタノセン触媒による環状オレフィン共重合体の合成と官能基化
(都立大[1])○澁木麻優[1], 野村琴広[1]

1B02(9:45～10:00) Machine-learning-assisted data integration and molecular field analysis of norbornene insertion in structurally diverse group 4 olefin polymerization catalysts
(Hiroshima Univ.[1], RIKEN[2])○Y. Zou[1], S. Yamaguchi[2], R. Tanaka[1]

1B03(10:00～10:15)Synthesis of half-titanocenes containing unsymmetric imidazolin-2-iminato ligands for ethylene copolymerization
(Tokyo Metropolitan Univ.[1], TU Braunschweig[2])
○K. Jantawan[1], R. Frank[2], M. Tamm[2], K. Nomura[1]

1B04(10:15～10:30)Synthesis of half-titanocenes containing ketimide ligands and their use as catalysts for ethylene copolymerization
(Tokyo Metropolitan Univ.[1], Kanagawa Univ.[2])
○K. Paramanurak[1], M. Kawatsu[1], S. Shibata[2], K. Nomura[1]

休憩(10:30～10:45)

司会 相田冬樹氏 (ENEOS)(10:45～11:45)

1B05(10:45～11:30)【Invited】Tailoring cyclic olefin copolymers and terpolymers via transition metal catalysis: from macromolecular design to functional applications
(SCITEC-CNR[1])○S. Losio[1], A. Vignali[1]

1B06(11:30～11:45)The role of comonomer content in tuning the thermal, mechanical, and rheological properties of norbornene-based copolymers and terpolymers
(SCITEC-CNR[1])S. Losio[1], ○A. Vignali[1]

C 会場(2F・国際会議場)

司会 大村敏一氏 (ENEOS)(10:10～11:30)

(10:10～10:15)装置部会長挨拶
(ENEOS)渡邊洋毅

1C01(10:15～10:30)メンテナンス業界団体における作業者向けフランジ締結技能講習制度(第 2 報)
(レイズネクスト[1])○近藤康治[1]

1C02(10:30～10:45)フランジ漏洩ゼロに向けた取り組み事例の紹介
(出光興産[1])○高濱展康[1]

1C03(10:45～11:00)重質油ポンプの維持管理における配慮事項
(昭和四日市石油[1])○荒木雄太[1]

1C04(11:00～11:15)硫化物応力腐食割れ環境下での配管工事対応について－モックアップテストによる工事個所の絞り込み検討－
(出光興産[1])○鶴島 守[1], 平野政男[1]

1C05(11:15～11:30)フロート式レベル計の不具合によるレーダー式レベル計への更新事例
(富士石油[1])○畠澤航琉[1]

2026 年北九州大会プログラム(10 月 29 日・・午前)

D 会場(2F・21 会議場)	E 会場(2F・22 会議室)	F 会場(3F・32 会議室)
司会 吉川聡一氏 (東京都立大学)(9:30～10:30) 1D01(9:30～9:45)CO_2とアセトニトリルの電気化学的還元によるアラニン合成 (埼玉大[1])○福島昂輝[1]，鈴木崇哲[1]，荻原仁志[1] 1D02(9:45～10:00)Au-Ni 複合触媒によるエチレンへの CO_2挿入反応 (都立大[1]，九州大[2]，北海道大[3]，大阪公大[4]) ○喬 立先[1]，荒田晃生[1]，中山晶皓[2]，坂口紀史[3]，嶋田哲也[1]，髙木慎介[1]，石田玉青[4] 1D03(10:00～10:15)CO_2を原料とするプロセスにおけるカルバミン酸エステルのイソシアネート化触媒の開発 (産総研[1]，東ソー[2])○長江春樹[1]，小泉博基[1]，坂口孝太[2]，吉田拓夢[2]，松谷崇生[2]，星野浩慶[2]，羽村 敏[2]，山本敏秀[2]，松本和弘[1]，深谷訓久[1]，崔 準哲[1] 1D04(10:15～10:30)Re 触媒による CO_2吸収エチレンジアミンから *N*-メチルエチレンジアミンへの水素化反応 (東北大[1]，群馬大[2])○元木智博[1]，藪下瑞帆[1]，中川善直[2]，冨重圭一[1] **休憩(10:30～10:45)** **司会 桑原泰隆氏 (大阪大学)(10:45～11:45)** 1D05(10:45～11:00)塩基性金属酸化物クラスターと金属イオンの複合化による酸塩基協奏型固体触媒の設計 (都立大[1]，東京大[2])○吉川聡一[1]，福田正次[1]，Varghese, C.[1]，米里健太郎[2]，鈴木康介[2]，河底秀幸[1]，檜垣達也[1]，山口和也[2]，山添誠司[1] 1D06(11:00～11:15)アンモニア合成に有効な鉄系コアシェル構造とその触媒機能の解明 (科学大[1]，北海道大[2])○井 元[1]，清水寿奈[1]，服部真史[1]，石川理史[1]，鳥屋尾 隆[2]，原 亨和[1] 1D07(11:15～11:30)Is power-to-X the path to effective CO_2 utilization? (AIST[1])○B. Caudle[1]，S. Taniguchi[1]，T. TH. Nguyen[1]，N. Hara[1]，S. Kataoka[1] 1D08(11:30～11:45)固液相分離型 DAC システムにおけるイソホロンジアミンによる CO_2吸収によって生成するモノカルバミン酸の構造解析 (都立大[1]，東京大[2]，京都工繊大[3]，金沢大[4]) ○熊谷 理[1]，八木原陸矢[1]，吉川聡一[1]，檜垣達也[1]，河底秀幸[1]，米里健太郎[2]，神林直哉[3]，山田秀尚[4]，鈴木康介[2]，山添誠司[1]		Chair Dr. R. Osuga(Tohoku Univ.)(9:30～10:30) 1F01(9:30～10:00)【Invited】Thermal and photothermal reverse water-gas shift reaction using oxygen-deficient molybdenum oxide catalysts (Univ. Osaka[1])○Y. Kuwahara[1] 1F02(10:00～10:15)Effect of Ni addition to Fe/$MgAl_2O_4$ catalysts on CO_2 hydrogenation (Saitama Univ.[1])○R. Nomi[1]，T. Suzuki[1]，H. Ogihara[1]，H. Kurokawa[1] 1F03(10:15～10:30) Oxygen-tolerant dual function materials for combined CO_2 capture and conversion to CO (AIST[1]，TU Delft[2])○S. Miyazaki[1]，A. Klein[1,2]，Y. Ono[1]，T. Sasayama[1]，F. Kosaka[1]，A. Urakawa[2]，K. Kuramoto[1] Break (10:30～10:45) Chair Dr. H. Fujitsuka(Science Tokyo)(10:45～11:45) 1F04(10:45～11:00)Study on the solid-phase carbonation of CO_2 using CO disproportionation catalytic reactions and the agricultural utilization of the resulting carbon (Waseda Univ.[1]，Kubota[2]，Kochi Agri. Center[3]) ○S. Igarashi[1]，T. Masuda[1]，M. Sato[1]，Y. Hirosawa[2]，Y. Izumi[2]，W. Shiraishi[3]，Y. Sekine[1] 1F05(11:00～11:15)Insights into MTO reaction mechanism explored by automated reaction route mapping and operando DRIFT (Univ. Tokyo [1])○W. Kuboki[1]，S. Yasumura[1]，M. Ogura[1] 1F06(11:15～11:45)【Invited】Applications of sustainable chemical transformation using photocatalysis (Tokyo Univ. Agri. Tech.[1])○K. Nakata[1]

2026 年北九州大会プログラム(10 月 29 日・・午前)

G 会場(3F・33 会議室)		
司会 三宅浩史氏 (大阪大学)(9:30～10:30) 1G01(9:30～9:45)Bi 導入ゼオライト触媒を用いた酸化的エタン脱水素反応 (工学院大[1], JST-PRESTO[2])○守田康将[1], 並木則和[1], 前野 禅[1,2] 1G02(9:45～10:00)低温でのエタン脱水素反応に有効な Pb 導入 MFI ゼオライト触媒の活性点に関する検討 (工学院大[1], JST-PRESTO[2])○竹内笙子[1], 並木則和[1], 前野 禅[1,2] 1G03(10:00～10:15)ゼオライト内包 PtGa 合金触媒を用いたエタンから直接芳香族合成 (科学大[1])○今井悠人[1], 淺海礼智[1], 後藤秀和[1], 木村健太郎[1], 藤墳大裕[1], 多湖輝興[1] 1G04(10:15～10:30)反応経路自動探索法を活用したメタン脱水素芳香族化の失活メカニズム考察 (東京大[1])○安村駿作[1], 小倉 賢[1] **休憩(10:30～10:45)** **司会 前野 禅氏 (工学院大学)(10:45～11:45)** 1G05(10:45～11:00)Pt 系合金の Bader 電荷を予測する機械学習モデルの構築と予測の合理性の考察 (奈良先端大[1])○高山大鑑[1], 中野真実[1], 原嶋庸介[1], 高須賀聖五[1], 藤井幹也[1] 1G06(11:00～11:15)PdAu 合金ナノ粒子触媒によるベンゼンのヒドロキシ化反応 (横浜国大[1])○長谷川慎吾[1], 今西陽一郎[1], 本倉 健[1] 1G07(11:15～11:30)ETP 反応を指向した Ni, Al 含有メソポーラスシリカ触媒の構築 (大阪大[1])○井本倫子[1], 三宅浩史[1], 内田幸明[1], 西山憲和[1] 1G08(11:30～11:45)Ni 系金属間化合物を用いた高効率アセチレン半水素化反応 (大阪大[1])○田中威頼[1], 中谷勇希[1], 古川森也[1]		

2026 年北九州大会プログラム(10 月 29 日・・午後)

A 会場(1F・メインホール)	B 会場(1F・11 会議室)	C 会場(2F・国際会議場)
司会 岩本隆一郎氏 (出光興産)(13:15～14:15) 1A09(13:15～13:30)FT ベンチ装置による液体合成燃料製造検討(第 5 報)2 kW 級 FT ベンチ装置を用いた HB 触媒が FT 合成に及ぼす影響検討 (JPEC[1], 太陽石油 [2])○網谷直樹 [1], 教蓮 亨 [2], 雨宮正臣 [1], 大山信雄 [1], 関沢礼子 [1], 新谷紀行 [1] 1A10(13:30～13:45)液体合成燃料一貫製造プロセスにおけるシミュレーションモデルの構築と製造効率改善の取り組み (JPEC[1])○盛田和行 [1], 田畑光紀 [1] 1A11(13:45～14:00)FT 合成ナフサ留分のポスト処理によるガソリン燃料基材化の検討 (コスモ石油 [1], JPEC[2])○濱田夏輝 [1], 佐藤一仁 [1], 飯塚喜啓 [1], 鈴木星哉 [2], 今井章雄 [2], 大森敬朗 [2], 木濟寛史 [2], 岡本憲一 [2] 1A12(14:00～14:15)合成ガソリンへのバイオエタノール有効利用検討 (JPEC[1])○鈴木星哉 [1], 今井章雄 [1], 大山信雄 [1], 大森敬朗 [1], 木濟寛史 [1], 岡本憲一 [1] **休憩**(14:15～14:30) **司会 森田光雄氏 (日揮グローバル)**(14:30～15:30) 1A13(14:30～15:00)**【招待】**国内外のプラスチックケミカルリサイクルプラントの動向について (JPEC[1])○高澤隆一 [1] 1A14(15:00～15:15) 廃プラスチックの石油化学原料化に向けたスクリューキルン型反応器の実証 (東洋エンジ [1], 東北大 [2])○岡島 聡 [1,2] 1A15(15:15～15:30)プラスチックの新しいリサイクルを実現する廃プラアスファルト舗装技術 (ENEOS[1])○高田智至 [1], 小早川尚之 [1], 谷津道寛 [1], 吉田優海 [1], 内木武虎 [1]	**司会 野村琴広氏 (東京都立大学)**(13:15～14:15) 1B07(13:15～13:30)Breaking away from ideal surfaces to explain stereospecific active sites in heterogenous Ziegler–Natta catalysts (JAIST[1])○J. M. da Silveira[1], T. Taniike[1] 1B08(13:30～14:15)**【招待】**オレフィン重合触媒の複雑構造へのアプローチ (北陸先端大 [1])○和田 透 [1], 谷池俊明 [1] **休憩**(14:15～14:30) **司会 野村琴広氏 (東京都立大学)**(14:30～15:30) 1B09(14:30～14:45)生体触媒 Catalase-Peroxidase(KatG$_{S1}$)を利用したポリエチレンの酸化改質および資源循環技術への応用 (福島大 [1])○星 淳志 [1], 西部伸幸 [1], 長谷川史音 [1], 杉森大助 [1] 1B10(14:45～15:00)酵素触媒を用いたポリプロピレン(PP)の精密分解による高付加価値物質(末端メチルケトンオリゴマー, 末端不飽和 PP オリゴマー)への変換, および PP の高度親水化 (福島大 [1])○星 斎槻 [1], 西部伸幸 [1], 田中智成 [1], 杉森大助 [1] 1B11(15:00～15:15)酵素触媒を用いた NBR の精密分解と高付加価値分解生成物 βケトアルデヒドオリゴマーの高収率化 (福島大 [1])○西部伸幸 [1], 孔 威 [1], 飯島陸公 [1], 杉森大助 [1] 1B12(15:15～15:30)電気化学的ニコチンアミド系補酵素再生のための電極触媒の開発と生体触媒による物質生産への応用 (大阪公大 [1])○久保誠貴 [1], 天尾 豊 [1]	**司会 伊藤 剛氏 (ENEOS)**(13:00～14:15) 1C06(13:00～13:15) 四足歩行ロボットを活用した予兆保全検討 (コスモ石油 [1])○福田美唯 [1] 1C07(13:15～13:30)配管内面の腐食を補修する溶接ロボットの開発 (コスモエンジ [1])○又賀和昭 [1] 1C08(13:30～13:45)PI データ利活用による課題解決に向けた知恵の創出と仕組み化について (太陽石油 [1])○池内博昭 [1] 1C09(13:45～14:00) 操業管理・運用プラットフォーム PlantLogMeister のナレッジ活用 (TMEIC[1])○木曾裕貴 [1] 1C10(14:00～14:15)IOW(運転監視項目)の再整理とデジタル技術を活用した監視強化 (コスモ石油 [1])○江藤大貴 [1] **休憩**(14:15～14:30) **司会 小倉 剛氏 (出光興産)**(14:30～15:45) 1C11(14:30～14:45) 網羅的振動場解析による往復動圧縮機のライダーリング異常摩耗検知 (三井 E&S[1])○高山祐輔 [1], 屋敷 渓 [1], 脇 隆 [1], 飯塚大貴 [1] 1C12(14:45～15:00)電流情報量診断による電動機振動上昇不具合原因の特定と設備改善事例の紹介 (出光興産 [1])○樋田 了 [1], 髙橋幸訓 [1] 1C13(15:00～15:15) 画像解析技術を用いたコンクリート設備の健全度診断 (中外テクノス [1])○奥井憲昭 [1] 1C14(15:15～15:30)外面検査管理アプリを用いた検査効率化 (ENEOS[1], ENEOS HD[2])○田中宏和 [1], 石井健登 [2] 1C15(15:30～15:45)外面腐食検査 DX－教育アプリ活用による外面腐食検査品質向上－ (ENEOS[1])○東山大介 [1]
(16:00～16:05)会長挨拶 (16:05～16:15)設備維持管理士育成優良事業所表彰式 **司会 山本勝俊氏 (北九州市立大学)**(16:30～17:20) (16:30～17:20)**【特別講演】** ～工業の街から食の聖地へ～「すしの都 北九州市」の挑戦 北九州市都市ブランド創造局すしの都課 課長 吉田 剛		

2026 年北九州大会プログラム(10 月 29 日・・午後)

D 会場(2F・21 会議場)

司会 多田昌平氏 (北海道大学)(13:15～14:15)

1D09(13:15～13:30)FT 合成を経由したカーボンリサイクル LPG 製造技術の開発 (日本製鉄[1], 富山大[2])○松田敬太郎[1], 中尾憲治[1], 山根典之[1], 保田修平[2], 何 英洛[2], 椿 範立[2]

1D10(13:30～13:45)CO_2直接 FT 合成におけるアルミナ担持 CuMgFe ハイドロタルサイト由来触媒の Cu-Fe 近接構造と触媒活性 (科学大[1], Univ. Philippines Visayas[2])○Chin, T.[1], 中村 拳[1], Calangi, J. D.[2], 藤墳大裕[1], 多湖輝興[1], 木村健太郎[1]

1D11(13:45～14:00)高選択的炭化水素合成プロセスのためのゼオライト触媒の開発
(徳島大[1], 三菱電機[2])○篠原 司[1], 岩井大輝[1], 藤本湖太郎[1], 霜田直宏[1], 川本 誠[2], 篠木俊雄[2], 野村泰光[2]

1D12(14:00～14:15)アルカリ金属添加担持 Rh-MoO_x触媒を用いたCO_2水素化によるエタノール合成 (都立大[1])
○佐藤拓真[1], 魏 増皓[1], 松山剛大[1], 三浦大樹[1], 宍戸哲也[1]

休憩(14:15～14:30)

司会 杉浦行寛氏 (ENEOS)(14:30～15:45)

1D13(14:30～14:45)流動床を用いたメタネーション反応－コバルト触媒における担体の検討－
(北見工大[1])○村松泰季[1], 奥村公陽[1], 岡崎文保[1], 坂上寛敏[1]

1D14(14:45～15:00)流動床を用いたメタネーション反応とメタン直接改質反応による二酸化炭素の炭素への固定化に関する検討
(北見工大[1])○山崎怜央[1], 奥村公陽[1], 岡崎文保[1], 坂上寛敏[1]

1D15(15:00～15:15)O_2共存下でのCO_2回収水素化によるメタン生成に有効なAl_2O_3担持 Ru-Ni-K 触媒 (工学院大[1], JST-PRESTO[2])○菊田皓雅[1], 並木則和[1], 前野 禅[1,2]

1D16(15:15～15:30)転炉スラグを触媒に利用した逆水性ガスシフト反応と含有 Fe 種の役割
(大阪大[1])○福室遥己[1], 森 浩亮[1], 桑原泰隆[1]

1D17(15:30～15:45)Pt および Mo 酸化物ナノ粒子内包中空シリカ触媒を用いた光熱変換型逆水性ガスシフト反応
(大阪大[1], 京都大[2])○長谷拓英[1], 高見大地[1,2], 森 浩亮[1], 桑原泰隆[1]

E 会場(2F・22 会議室)

司会 遠藤健司氏 (石油資源開発)(13:15～14:15)

1E01(13:15～14:00)【招待】石油開発技術が拓く脱炭素社会－エネルギートランジションへの挑戦－
(九州大[1])○菅井裕一[1]

1E02(14:00～14:15) IP 法を用いた CCS 挙動予測シミュレータの開発および ES-MDA 法によるヒストリーマッチング手法の提案
(早稲田大[1])○大島光平[1], 大内久尚[1]

休憩(14:15～14:30)

司会 高橋優志氏 (ENEOS Xplora)(14:30～15:45)

1E03(14:30～14:45) シミュレーションスタディーによるコンデンセート析出に起因する生産性低下抑制検討
(INPEX[1])○中島寿徳[1]

1E04(14:45～15:00)天然水素探鉱の動向とポテンシャル―石油システム概念と E&P 技術の応用―
(石油資源開発[1])○大谷猛亮[1], 齋藤雄一[1], 林 努[1]

1E05(15:00～15:15) 放射光設備での高解像度岩石画像取得および Digital Rock Physics への適用
(東京大[1], INPEX[2],)○小峯健太郎[1], 岩間弘樹[2], 小林 肇[1]

1E06(15:15～15:30)資源開発事業における社内に蓄積された教訓知見を活用するための AI 開発事例
(INPEX[1])○野村幸人[1], 飯塚 諒[1], 坂本 壮[1]

1E07(15:30～15:45)JAPEX におけるノルウェー事業紹介
(石油資源開発[1])○角野弘明[1], 加藤 新[1]

F 会場(3F・32 会議室)

Chair Dr. T. Takayama(NAIST)(13:15～14:15)

1F07(13:15～13:45)【Invited】Development of catalyst materials utilizing metal suboxides
(Hokkaido Univ.[1])○R. Otomo[1]

1F08(13:45～14:00)Deoxydehydration of vicinal diols over rhenium-based catalysts under atmospheric hydrogen pressure
(Tohoku Univ.[1])○P. A. Krisbiantoro[1], Y. Nakagawa[1], M. Yabushita[1], K. C. W. Wu[1], K. Tomishige[1]

1F09(14:00～14:15)Chemical recycling of PET by homogeneous $FeCl_3$-amine catalysts (Tokyo Metropolitan Univ.[1])
○Y. Ishikawa[1], K. Jaiyen[1], K. Nomura[1]

Break (14:15～14:30)

Chair Dr. K. Tashiro(Shizuoka Univ.)(14:30～15:30)

1F10(14:30～14:45)Precursor-dependent carbon nitride engineering for highly selective quinoline hydrogenation over low-loading Ru catalysts (Hokkaido Univ.[1])
○K. Kumar[1], H. Ishikawa[1], A. Oda[1], T. Murayama[1]

1F11(14:45～15:00)Selective hydration of alkynes catalyzed by activated carbon-supported gold nanoparticles
(Hokkaido Univ.[1])○H. Ishikawa[1], Y. Wu[1], A. Oda[1], T. Murayama[1]

1F12(15:00～15:15)Coke formation behavior and potential contributing factors during thermal CVD from C4 and C5 hydrocarbons (Kyoto Univ.[1], Science Tokyo[2])
○W. Jin[1], H. Fujitsuka[2], M. Kawase[1]

1F13(15:15～15:30)Development of carbon iron composite catalysts for ammonia decomposition
(Nagoya Univ.[1], Shinshu Univ.[2])○S. Hong[1], H. Yamada[1], Y. Mukai[2], K. Sato[1], K. Nagaoka[1]

2026 年北九州大会プログラム(10 月 29 日・・午後)

G 会場(3F・33 会議室)		
司会 中谷勇希氏 (大阪大学)(13:15～14:15) 1G09(13:15～13:30)ゼオライト系触媒カラムによる 1,2-ジオールとエポキシ化合物の連続スイッチ合成 (産総研[1], 東京大[2])○今 喜裕[1], 中島拓哉[1], 永島裕樹[1], 小野澤俊也[1], 小林 修[1,2] 1G10(13:30～13:45)高 LCO 型 FCC 触媒の開発 (日揮触媒化成[1])○田中千鈴[1], 太田吏音[1], 新宅 泰[1], 城戸直之[1] 1G11(13:45～14:00)熱分析装置を用いた保護剤被覆金属触媒の還元度評価法－FT 合成触媒への適用－ (ENEOS[1]) ○須藤拓哉[1], 荒木泰博[1], 新宮英樹[1], 新垣洪介[1], 金子拓矢[1] 1G12(14:00～14:15)卑金属担持 Zr_3SO_9 の n-ブタン異性化 (科学大[1])○菅谷真央[1], 石川理史[1], 原 亨和[1] **休憩(14:15～14:30)** **司会 新宅 泰氏 (日揮触媒化成)(14:30～15:45)** 1G13(14:30～14:45)フッ化物塩とシリコン粉末を用いるニトロアレーンの還元反応 (横浜国大[1])○新木 桃[1], 白下拓哉[1], 長谷川 慎吾[1], 本倉 健[1] 1G14(14:45～15:00)セリウム塩存在下におけるニトロ化合物とアルコールの直接変換による含窒素有機化合物の合成 (香川大[1])○和田健司[1], 趙 波[1], Jahan, I.[1], 栗原亮介[1], 上村 忍[1] 1G15(15:00～15:15)不均一系触媒を用いたビアリール骨格の酸化的開裂による安息香酸合成 (都立大[1], 九州大[2], 北海道大[3], 大阪公大[4])○荒田晃生[1], 中山晶皓[2], 坂口紀史[3], 嶋田哲也[1], 高木慎介[1], 石田玉青[4] 1G16(15:15～15:30)低原子価チタン酸化物を用いた選択的アセタール化 (北海道大[1])○山﨑大輝[1], 佐藤未悠[1], 田中 太[1], 神谷裕一[1], 大友亮一[1] 1G17(15:30～15:45)固相転換法による Pt@MFI ゼオライト触媒の開発とベンゼン直接エチル化反応の評価 (科学大[1]) ○福島功基[1], 遠藤海咲[1], 木村健太郎[1], 藤墳大裕[1], 多湖輝興[1]		

2026 年北九州大会プログラム(10 月 30 日・・午前)

A 会場(1F・メインホール)

司会 中野宏二氏 (日揮触媒化成)(9:00～10:00)

2A01(9:00～9:15)製油所装置による多種混合廃プラの大規模処理技術開発(第 1 報)重油との共処理による廃プラスチックの低分子化条件検討
(東北大[1], Chulalongkorn University[2], 京都大[3], ENEOS[4], JPEC[5])○中嶋魁心[1], 熊谷将吾[1,2], Phanthong, P.[1], 斯琴高娃[1], 齋藤優子[1], 田村正純[2], 松下康一[3], 森北孝志[4], 高澤隆一[4], 吉岡敏明[1,2]

2A02(9:15～9:30)製油所装置による多種混合廃プラの大規模処理技術開発(第 2 報)重油水素化脱硫反応における廃プラスチック共処理油の影響 (ENEOS[1], 東北大[2], Chulalongkorn University[3], 京都大[4], JPEC[5])
○松下康一[1], 阿川 陽[1], 中嶋魁心[2], 熊谷将吾[2,3], 吉岡敏明[2,3], 田村正純[4], 森北孝志[5], 高澤隆一[5], 平尾朋之[1], 前田 拓[1]

2A03(9:30～9:45)レニウム修飾ルテニウム触媒によるポリオレフィン系プラスチックの水素化分解
(京都大[1])○福田 廉[1], 喜多裕介[1], 陳 鵬茹[1], 田村正純[1]

2A04(9:45～10:00)Selective hydrogenolysis of polyethylenes over La_2O_3–CeO_2–supported Ru catalysts
(Kyoto Univ.[1])○Z. Peng[1], Y. Kita[1], C. Pengru[1], M. Tamura[1]

休憩(10:00～10:15)

司会 高澤隆一氏 (JPEC)(10:15～11:15)

2A05(10:15～10:30)Zr_3SO_9触媒によるポリオレフィンの分解反応
(室蘭工大[1], 科学大[2])○神田康晴[1], 田村 豪[1], 石川理史[2]

2A06(10:30～10:45)MFI 型ゼオライトを触媒とするアルカンの液相分解挙動 (鳥取大[1])○中下生翔[1], 本田 遼[1], 松下真一郎[1], 津野地 直[1], 辻 悦司[1], 片田直伸[1]

2A07(10:45～11:00)石灰を含むポリエチレン分解における Beta 触媒の効果
(早稲田大[1], 理科大[2])○今村聡見[1], 酒井 求[1,2], 松方正彦[1]

2A08(11:00～11:15)炭化水素溶媒中における HDPE 分解反応に用いるアルカリ処理ゼオライト触媒の開発
(早稲田大[1], 理科大[2])○神木大輝[1], 酒井 求[1,2], 松方正彦[1]

B 会場(1F・11 会議室)

司会 財部明郎氏 (財部技術士事務所)(9:00～10:00)

2B01(9:00～9:30)【招待】非循環式芦野温泉に含まれるイオン化合物の分析方法および有効成分の温泉効果
(ノックス[1])○佐藤省吾[1], 橋本喜代美[1]

2B02(9:30～9:45)小浜温泉からのリチウム回収について
(レアメタル技研[1], ENEOS HD[2])○山縣亮介[1], 菅 伸治[1], 吉塚和治[1], 服部泰久[2]

2B03(9:45～10:00)廃木材から調製した活性炭による石油類中水銀除去 (愛媛大[1], IH テクノロジー[2])○山浦弘之[1], 杉野舞佳[1], 山下泰将[1], 山口修平[1], 幾島嘉浩[2], 八尋秀典[1]

休憩(10:00～10:15)

司会 山浦弘之氏 (愛媛大学)(10:15～11:15)

2B04(10:15～10:30) 通液石油製品の水銀濃度に適合した水銀除去剤の開発
(IH テクノロジー[1], 愛媛大[2])○幾島賢治[1], 幾島將貴[1], 八尋秀典[2]

2B05(10:30～10:45)廃蛍光灯処理における水銀の適正処理とレアアースを含む蛍光体の回収
(野村興産[1])○岩瀬博樹[1]

2B06(10:45～11:00) 米国におけるバイオエタノールの製造と流通・販売状況
(財部技術士事務所[1])○財部明郎[1]

2B07(11:00～11:15)酸化チタン光触媒によるジベンゾチオフェンの酸化と液体燃料脱硫への応用
(九州大[1], 都立大[2], 神奈川工科大[3])○福本孝志[1], 山内崇弘[1], 田原誼紀[2], 中山晶皓[1], 吉澤明菜[1], 山本英治[1], 嶋田哲也[2], 高木慎介[2], 村山美乃[3], 徳永 信[1]

C 会場(2F・国際会議場)

司会 小宮満明氏 (出光興産)(9:00～10:15)

2C01(9:00～9:15) 熱交基礎補強における荷重分散工法の適用
(出光興産[1])○Luong, L.[1]

2C02(9:15～9:30)重質油溶解薬剤を用いたアスファルトタンク清掃の新規採用と各種改善事例
(東亜石油[1])○清水大器[1]

2C03(9:30～9:45)コークドラム OHD 配管の減肉事例について
(コスモ石油[1])○小野寺優奈[1]

2C04(9:45～10:00)複合材フローティング・ルーフ(腐食問題を解消する方法)(第 1 報)複合材料の主要な性能特性
(HMT[1])○浦 浩志[1]

2C05(10:00～10:15)複合材フローティング・ルーフ(腐食問題を解消する方法)(第 2 報)技術の軌跡と安全性の検証
(HMT[1])○浦 浩志[1]

休憩(10:15～10:30)

司会 曽我卓司氏 (太陽石油)(10:30～11:30)

2C06(10:30～10:45)設備保全管理システムー運転中・定修中保全業務に対する効率化/業務品質向上の報告ー
(ENEOS[1])○浅野禎介[1]

2C07(10:45～11:00)超音波厚さ測定による FRP 構造物の劣化評価と運転中適用に関する検討
(富士石油[1])○林田政徳[1]

2C08(11:00～11:15) 常圧蒸留装置常圧蒸留塔塔頂系へのオンラインモニタリングの適用
(出光興産[1])○前田将太[1]

2C09(11:15～11:30)減圧軽油水添脱硫装置ー分留塔入口加熱炉停止下におけるプロセス変更と操業継続ー
(出光興産[1])○加藤康之[1]

2026 年北九州大会プログラム(10 月 30 日・・午前)

D 会場(2F・21 会議室)

司会 木村信啓氏 (ENEOS)(9:30～10:15)

2D01(9:30～10:15)【招待】熱分解を起点とするバイオマスからの合成ガス，化学品および炭素材のコプロダクション
(九州大[1])○林 潤一郎[1]，工藤真二[1]，Ashik, U. P. M.[1]

休憩(10:15～10:30)

司会 菅沼学史氏 (北海道大学)(10:30～11:30)

2D02(10:30～10:45)多段式スパイラル構造体触媒システムを用いたバイオガスの直接メタン化特性
(静岡大[1])○赤間 弘[1]，植田祥太[1]，松野太信[1]，渡部 綾[1]

2D03(10:45～11:00)Ni-Ru バイメタルナノ粒子触媒の調製およびそれを用いた酢酸水蒸気改質
(東京農工大[1])○陶山直子[1]，Silmina, S.[1]，銭 衛華[1]

2D04(11:00～11:15)天然貝殻由来炭酸カルシウムの熱分解と還元を利用した合成ガスの製造 (成蹊大[1]，山梨大[2])
○大津羽留佳[1]，髙橋直弥[1]，西條文規[1]，叶 洪[1]，里川重夫[1,2]

2D05(11:15～11:30)グルコースを還元力として利用可能な形質転換メタン資化細菌の構築 (科学大[1]，慶應大[2])○加藤和也[1]，尾台俊亮[2]，宮地輝光[2]，伊藤栄紘[1]，蒲池利章[1]

F 会場(3F・32 会議室)

司会 赤間 弘氏 (静岡大学)(9:00～10:00)

2F01(9:00～9:15)大崎上島におけるアンモニアメタネーション試験用ベンチ装置の概要と設置状況
(広島大[1]，広島ガス[2])○斉間 等[1]，砂本礼志[1]，木村 保[2]，田端 主[2]，宮岡裕樹[1]，市川貴之[1]

2F02(9:15～9:30)成形体触媒を用いた電場触媒反応によるアンモニア分解
(早稲田大[1]，日本特殊陶業[2])○平田克真[1]，南 貴翔[1]，秋山広夢[1]，乾 敦寛[1]，重本彩香[1]，中川尚人[2]，池山耕太[2]，関根 泰[1]

2F03(9:30～9:45)アンモニアからの高効率水素製造に向けた酸化バナジウム担持 Ni 触媒の開発
(山梨大[1]，鈴鹿高専[2]，太陽鉱工[3])○河津龍翔[1]，南部智憲[2]，吉永英雄[3]，柳 博[1]，小俣香織[1]

2F04(9:45～10:00)ギ酸誘導体を用いたクリーン水素供給プロセスの紹介
(INPEX[1])○長谷川幹晃[1]，佐野洋介[1]，尾場瀬崇裕[1]

休憩(10:00～10:15)

司会 織田 晃氏 (北海道大学)(10:15～11:15)

2F05(10:15～10:30)低コストモジュラー型 PEM 水電解システムに向けた水枯れ挙動評価
(電中研[1])○小林 駿[1]

2F06(10:30～10:45)固体リン酸塩電解質を用いた中温アンモニア合成用 Fe/BZY カソード触媒の研究
(北海道大[1]，高輝度光科学研究センター[2])○多田昌平[1]，中島大和[1]，畑沢星臣[1]，本間徹生[2]，菊地隆司[1]

2F07(10:45～11:00)Z スキーム水分解のための $LaTiO_2N$ 酸素生成光触媒への助触媒共担持とレドックス反応への影響の調査
(東北大[1]，名古屋大[2])○吉野隼矢[1]，山谷 陽[1]，茂野未夢[1]，徐 鉅威[1]，小林 亮[2]，加藤英樹[1]

2F08(11:00～11:15)通電加熱式の Co 系スパイラル形触媒によるバイオエタノールの改質特性の評価
(静岡大[1])○美濃一秀[1]，岩橋宙来[1]，赤間 弘[1]，渡部 綾[1]

G 会場(3F・33 会議室)

司会 石川理史氏 (東京科学大学)(9:00～10:00)

2G01(9:00～9:15)微量のアルカリ金属イオン添加が ZSM-5 合成に及ぼす影響
(早稲田大[1]，理科大[2])○吉岡 元[1]，酒井 求[1,2]，松方正彦[1]

2G02(9:15～9:30)SSZ-13 ゼオライトの結晶化に及ぼす種結晶ならびに熟成処理条件の影響
(科学大[1])○栄原基輝[1]，王 勇[1]，横井俊之[1]

2G03(9:30～9:45)ブレンディング法による CON 型ゼオライト合成における原料 MFI 型および Beta 型ゼオライトの Al 量の影響
(科学大[1])○田口智暁[1]，中村壮希[1]，豊田大翔[1]，横井俊之[1]

2G04(9:45～10:00)共鳴 X 線発光分光で捉えるゼオライト結晶化に先行したシリケート骨格の局所秩序化
(東北大[1]，QST[2]，NIMS[3]，東京大[4]，科学大[5])○二宮 翔[1]，板本航輝[1]，荻原彩加[1]，Ugalino, R.[2]，Yin, Z.[1]，木内久雄[3]，原田慈久[4]，横井俊之[5]，西堀麻衣子[1]

休憩(10:00～10:15)

司会 横井俊之氏 (東京科学大学)(10:15～11:15)

2G05(10:15～10:30)木質バイオマス燃焼灰からの CHA ゼオライト合成
(北九大[1])○今井裕之[1]，加藤蘭丸[1]

2G06(10:30～10:45)ルイス酸点を豊富に有する Nb 高含有 MFI 型ゼオライトの新規合成
(大阪大[1])○中井流雅[1]，三宅浩史[1]，内田幸明[1]，西山憲和[1]

2G07(10:45～11:00)DAC 用固体吸着材として利用可能な有機-無機ハイブリッド型層状シリケート物質の開発と性能評価
(北九大[1]，産総研[2])○浦瀬菜々[1]，山本勝俊[1]，池田拓史[2]

2G08(11:00～11:15)結晶性硫酸化ニオブ複合酸化物の局所構造で発現する酸触媒機能の開拓 (科学大[1]，産総研[2])
○沼田裕喜[1]，石川理史[1]，池田拓史[2]，原 亨和[1]

2026 年北九州大会プログラム(10 月 30 日・・午後)

A 会場(1F・メインホール)

司会 秋本 淳氏 (エネルギー総合工学研究所)(13:00～13:45)

2A09(13:00～13:30)【招待】SAF SCS 認証制度の概要とマスバランスの考え方
(日本海事協会 [1])○山崎聡美 [1]，山本謙一郎 [1]，中島陸博 [1]

2A10(13:30～13:45)製油所共処理原料としての日本杉バイオオイルの試作と一般性状分析
(JPEC[1])○盛満耕造 [1]，佐瀬 潔 [1]，栗原 功 [1]

休憩(13:45～14:00)

司会 松下康一氏 (ENEOS)(14:00～15:00)

2A11(14:00～14:15)含酸素化合物共存下におけるジベンゾチオフェンおよび軽油の水素化脱硫反応の動力学解析
(東京農工大 [1])○劉 可欽 [1]，陳 達芊 [1]，彭 明明 [1]，銭 衛華 [1]

2A12(14:15～14:30) 減圧残油とバイオオイルの共熱分解効果
(東北大 [1]，Chulalongkorn University[2]，National Research and Innovation Agency of Indonesia[3]，JPEC[4]，LECO ジャパン [5]，日本電子 [6])
○熊谷将吾 [1,2]，Kusumawati, M. B.[1,3]，鈴木昭雄 [4]，樺島文恵 [5]，櫻井昌文 [5]，中井由実 [6]，佐藤貴弥 [6]，Siqingaowa, B.[1]，Phanthong, P.[1]，齋藤優子 [1]，吉岡敏明 [1,2]

2A13(14:30～14:45)重質油の接触分解およびバイオマスコプロセッシングを対象とした機械学習モデルによる生成物組成予測
(信州大 [1])○嶋田五百里 [1]，児玉侑平 [1]，宇野哲平 [1]

2A14(14:45～15:00)トール油のメチルエステル化による成分変化と腐食性への影響評価
(JPEC[1])○阿部美穂子 [1]，松本幸太郎 [1]，佐瀬 潔 [1]，栗原 功 [1]

休憩(15:00～15:15)

司会 藤井重孝氏 (千代田化工建設)(15:15～16:15)

2A15(15:15～15:30)外挿成分予測 AI を活用した石油系残油留分の構造同定予測手法の開発
(静岡大 [1]，JPEC[2])○村上裕哉 [1]，松本幸太郎 [2]，新井宏昌 [2]

2A16(15:30～15:45)FCC 装置予熱熱交換器におけるファウリング抑制技術の開発 (JPEC[1]，コスモ石油 [2])○佐瀬 潔 [1]，鈴木昭雄 [1]，栗原 功 [1]，大野琢也 [2]，萩原和彦 [2]

2A17(15:45～16:00)流動接触分解原料油と硫化鉄の混合物の加熱によるファウリング生成 (産総研 [1]，コスモ石油 [2]，JPEC[3])○麓 恵里 [1]，佐藤信也 [1]，柿沼敏弘 [1]，松澤貞夫 [1]，森本正人 [1]，大野琢也 [2]，萩原和彦 [2]，佐瀬 潔 [3]，鈴木昭雄 [3]

2A18(16:00～16:15)VGO への FAME 混合による分子集合状態変化の濃度依存性 (千葉大 [1]，産総研 [2]，JPEC[3]，出光興産 [4])
○森田 剛 [1]，麓 恵里 [2]，森本正人 [2]，佐瀬 潔 [3]，田中隆三 [3,4]，鈴木昭雄 [3]

B 会場(1F・11 会議室)

司会 大島一真氏 (成蹊大学)(13:00～14:00)

2B08(13:00～13:15)カリウムカチオン導入 MOR 型ゼオライトの合成と吸着特性 (早稲田大 [1]，理科大 [2])○塩谷大翔 [1]，久米紘平 [1]，酒井 求 [1,2]，松方正彦 [1]

2B09(13:15～13:30)B サイトを部分置換したペロブスカイト型酸化物触媒を用いた N_2O 分解 (北海道大 [1])○川村知士 [1]，安斎潤一郎 [1]，大井涼平 [1]，神谷裕一 [1]，大友亮一 [1]

2B10(13:30～13:45)アルミニウム系産業廃棄物を担体原料とした燃焼プロセス用担持金属触媒の開発
(徳島大 [1])○南出悠希 [1]，山岡翔輝 [1]，霜田直宏 [1]

2B11(13:45～14:00)コバルト-鉄系触媒を用いた Boudouard 反応の活性評価 (北見工大 [1])○村田一真 [1]，鈴木雄大 [1]，城村優利 [1]，岡﨑文保 [1]，坂上寛敏 [1]

休憩(14:00～14:15)

司会 霜田直宏氏 (徳島大学)(14:15～15:30)

2B12(14:15～14:30)プラスチック熱分解と触媒反応の複合プロセスの最適化の検討
(九州大 [1]，成蹊大 [2])○山本幸輝 [1]，大島一真 [2]，中川究也 [1]

2B13(14:30～14:45)ナノポーラスアルミノシリケート触媒によるポリオレフィン分解に及ぼす細孔径の影響
(大阪大 [1])○中山正太郎 [1]，三宅浩史 [1]，内田幸明 [1]，西山憲和 [1]

2B14(14:45～15:00)タイヤ熱分解油の水素化処理触媒評価(第 2 報)実プロセス導入を見据えた反応条件検討
(ENEOS[1])○岡田幸恵 [1]，富室洋介 [1]，小野稜太 [1]，岩本里菜 [1]，可児正也 [1]

2B15(15:00～15:15)プラスチックとバイオオイルの混合接触分解における原料間相互作用の解析 (信州大 [1])○奥野皓太 [1]，長田光正 [1]，福長 博 [1]，高橋伸英 [1]，嶋田五百里 [1]

2B16(15:15～15:30)溶媒循環を指向した溶媒選択－LCA とプロセスシミュレーションによる統合評価－
(産総研 [1])○山木雄大 [1]，片岡 祥 [1]

C 会場(2F・国際会議場)

司会 竹内健史氏 (出光興産)(13:00～13:45)

2C10(13:00～13:15)数値シミュレーションと DRIFTS の統合的利用による NTA 反応ダイナミクス解析 (科学大 [1]，Chulalongkorn Univ.[2])○Hwang, H.[1]，Wijakmatee, T.[2]，多湖輝興 [1]，松本秀行 [1]

2C11(13:15～13:30)マルチモーダル機械学習を用いたメタン分解触媒反応の性能予測
(産総研 [1])○伊藤 覚 [1]，陳 仕元 [1]，望月剛久 [1]

2C12(13:30～13:45)超音波を用いた触媒スラリー調合プロセス設計へのシステムズアプローチ
(科学大 [1])○松本秀行 [1]

休憩(13:45～14:00)

司会 松本秀行氏 (東京科学大学)(14:00～15:00)

2C13(14:00～14:15)重質油の配管混合に対する数値流体解析検討(第 1 報)ラボ実験装置内の流動状態解析 (コスモ石油 [1])
○杉山雅弘 [1]，鈴木伸也 [1]，長谷山翔真 [1]，宮成節子 [1]

2C14(14:15～14:30)重質油の配管混合に対する数値流体解析検討(第 2 報)プロセススケールへの拡張 (コスモ石油 [1])
○長谷山翔真 [1]，鈴木伸也 [1]，杉山雅弘 [1]，宮成節子 [1]

2C15(14:30～14:45)設備管理 DX を新たなステップへ ～「現場データ」を「経営戦略」へつなぐ アセットパフォーマンスマネジメント (APM) の実践～
(横河ソリューションサービス [1])白井呂尚 [1]，○宅島修平 [1]，斎藤芳明 [1]，品川俊太 [1]，井上裕司 [1]，久米智弘 [1]，北村 智 [1]

2C16(14:45～15:00)定修計画策定と実行を効率化するテクノロジーの紹介
(EY ストラテジー・アンド・コンサルティング [1])○安並 裕 [1]

休憩(15:00～15:15)

司会 砂山洋樹氏 (ドレーゲル)(15:15～16:00)

2C17(15:15～15:30)エネルギー産業における生成 AI の活用
－マイクロソフトの実践に見る技術の進化，国内外事例，実装の勘所－ (マイクロソフト [1])○飯田誠一 [1]

2C18(15:30～15:45)エンジニアの知恵を持つ AI ソリューション
(IntuigenceAI[1])○林 重光 [1]

2C19(15:45～16:00)AI ファーストマニュファクチャリングに向けた自律制御 AI の実用化と展開
(横河デジタル [1])○岡本浩実 [1]

2026 年北九州大会プログラム(10 月 30 日・・午後)

D 会場(2F・21 会議室)

司会 宮城 伸氏 (ENEOS)(13:15～14:15)

2D06(13:15～13:30)複合金属酸化物触媒を用いたリグニン酸化解重合によるバニリン類と乳酸の製造
(東京農工大[1])○山田理紗[1], 彭 明明[1], 銭 衛華[1]

2D07(13:30～13:45)ゼオライト触媒によるハイドロカルダノールの脱アルキル化を基軸としたバイオフェノール合成
(東北大[1], 北海道大[2])○大須賀遼太[1], 入場啓介[2], Wiesfeld, J.[2], 菅沼学史[2], 中島清隆[2]

2D08(13:45～14:00)固体触媒による HMF アセタールの Diels-Alder 反応 (北海道大[1], 東北大[2])大江志茉[1], ○大須賀遼太[2], 菅沼学史[1], 中島清隆[1]

2D09(14:00～14:15)PEF 製造を志向した担持 Au 触媒を用いた HMF アセタールの酸化的エステル化反応 (北海道大[1], 東北大[2])○新井 直[1], 大須賀遼太[2], 菅沼学史[1], 中島清隆[1]

休憩(14:15～14:30)

司会 蒲池利章氏 (東京科学大学)(14:30～15:30)

2D10(14:30～14:45)Selective production of even-carbon paraffins from pongamia oil over Ru-based catalysts
(Tokyo Univ. Agri. Tech.[1])○S. Muhammad Sony[1], K. Kamon[1], E. W. Qian[1]

2D11(14:45～15:00)担持金属触媒を用いたヘミセルロースから軽質炭化水素への変換
(高知大[1], 早稲田大[2])○小河脩平[1], 岩佐侑奈[1], 堀江成樹[1], 細川実紘[2], 関根 泰[2], 上田忠治[1], 恩田歩武[1]

2D12(15:00～15:15)Y-ゼオライト-Al_2O_3複合担体担持 Pt 触媒を用いたオレイン酸メチルの水素化分解反応によるジェット燃料製造－Al_2O_3含有量の影響－
(三重大[1])○財津秀章[1], 宮前多雅[1], 橋本忠範[1], 石原 篤[1]

2D13(15:15～15:30)Ni 系触媒と固体酸触媒の相乗効果によるブテンオリゴマー化によるジェット燃料選択性
(日揮触媒化成[1])○瀬戸由佳[1], 黒木孝行[1], 田川和成[1], 鍵谷真吾[1], 山根健治[1], 山口陽子[1]

F 会場(3F・32 会議室)

司会 本倉 健氏 (横浜国立大学)(13:00～14:00)

2F09(13:00～13:15)メタン直接改質反応－回転炉反応器での検討－
(北見工大[1])○田村柊人[1], 岡﨑文保[1], 坂上寛敏[1]

2F10(13:15～13:30)北海道内温泉付随ガスのメタン直接改質反応－共存ガスの影響の検討－ (北見工大[1], 道総研[2], 福井県立大[3])○長谷川伊織[1], 岡﨑文保[1], 木田真人[1], 南 尚嗣[1], 大森一人[2], 林 圭一[3], 鈴木隆広[2], 坂上寛敏[1]

2F11(13:30～13:45)二元金属触媒を用いた高圧下での電場中メタンドライリフォーミング
(早稲田大[1], クラサスケミカル[2])○知沢美咲[1], 堀口太裕[1], 下村隼人[2], 松原仁志[2], 板垣真太朗[2], 関根 泰[1]

2F12(13:45～14:00)NH_3を還元剤に用いた Carbon Capture and Reduction(CCR)プロセスのための担持 Ru 触媒の開発
(名古屋大[1])○村田崚成[1], 山田博史[1], 永岡勝俊[1], 佐藤勝俊[1]

休憩(14:00～14:15)

司会 荻原仁志氏 (埼玉大学)(14:15～15:15)

2F13(14:15～14:30)Development of an optimization platform for the design and feasibility assessment of CO_2-based industrial complexes (AIST[1])○T. Nguyen[1], S. Taniguchi[1], T. Yamaki[1], N. Hara[1], S. Kataoka[1]

2F14(14:30～14:45)Cu 錯体触媒の構造制御による電気化学的 CO_2 還元における生成物選択性制御
(横浜国大[1])○木場結月[1], 田代麻桜[1], 長谷川慎吾[1], 信田尚毅[1], 上野和英[1], 本倉 健[1]

2F15(14:45～15:00)選択的 CO 酸化反応に対する層状複水酸化物担持金触媒の活性－層状複水酸化物における金属種の影響－
(都立大[1], 大阪公大[2], 九州大[3], 北海道大[4], 高輝度光科学研究センター[5])○鈴木理久[1], 中山晶皓[3], 坂口紀史[4], 村山 徹[4], 本間徹生[5], 嶋田哲也[1], 高木慎介[1], 石田玉青[1,2]

2F16(15:00～15:15)KFe 系触媒を用いた CO_2 水素化反応
(東京農工大[1])○青山 海[1], 仇 啓涵[1], 銭 衛華[1]

休憩(15:15～15:30)

司会 佐藤勝俊氏 (名古屋大学)(15:30～16:15)

2F17(15:30～15:45)生体触媒を用いた二酸化炭素を原料とするイソクエン酸およびそのラクトン体合成
(大阪公大[1])○杉本琳香[1], 天尾 豊[1]

2F18(15:45～16:00)Zn-Fe 系スピネル酸化物と SSZ-13 による CO_2 からのタンデム型炭化水素合成
(早稲田大[1], 理科大[2])○森 弘毅[1], 酒井 求[1,2], 松方正彦[1]

2F19(16:00～16:15)二酸化炭素からのジメチルエーテルおよび炭化水素の直接合成
(静岡大[1])○武石 薫[1], 岡崎 諒[1]

G 会場(3F・33 会議室)

司会 神田康晴氏 (室蘭工業大学)(13:00～14:00)

2G09(13:00～13:15)ゼオライト触媒の特性を活用した多元機能触媒による二酸化炭素転換
(富山大[1])○笹川陽菜[1], 保田修平[1], 田口 明[1], 椿 範立[1]

2G10(13:15～13:30)ゼオライト細孔内への高活性 Rh ナノ粒子の多量内包とメタネーション触媒への応用
(名古屋大[1], 北海道大[2])○Fan, Y.[1], Shi, W.[1], 大津岳士[1], 沢邊恭一[1], 薩摩 篤[1], 織田 晃[2]

2G11(13:30～13:45)Cu 触媒とモルデナイトゼオライトのタンデム型触媒による合成ガスからの酢酸メチルと酢酸の選択合成－モルデナイトへの Ag の添加効果－
(産総研[1])○志村勝也[1], 中村 功[1], 藤谷忠博[1]

2G12(13:45～14:00)排熱利用を目指した多孔質 SiC 反応部の基礎伝熱特性の検討
(NGK[1])○橋本壮侍[1], 吉岡邦彦[1], 坪内 修[1], 安藤淳一[1]

休憩(14:00～14:15)

司会 粟屋恵介氏 (熊本大学)(14:15～15:15)

2G13(14:15～14:30)不均一系触媒を用いた低圧水素ガスによる NAD^+の選択的水素化に対する担持金属の効果
(大阪公大[1], 京都大[2])○木津直翔[1], 田村正純[2], 石田玉青[1], 天尾 豊[1]

2G14(14:30～14:45)糖類の酸化によるギ酸合成のための金属酸化物の探索
(北海道大[1])○秋山 尊[1], 神谷裕一[1], 大友亮一[1]

2G15(14:45～15:00)Development of Zeolite Catalysts for Hydrodeoxygenation of Lignin-Derived Compounds toward Biorefinery Applications
(科学大[1], 京都府立大[2], Chulalongkorn Univ.[3])○左 権[1], Wijitrat, A.[1], 宮藤久士[2], Ngamcharussrivichai, C.[3], 横井俊之[1]

2G16(15:00～15:15)Chevrel 型 Mo_6S_8 微粒子への異金属導入と水素化反応への展開 (科学大[1], 室蘭工大[2])○上村駿介[1], 石川理史[1], 神田康晴[2], 原 亨和[1]